

はクロカタビロオサが山道を歩いているのに出会った。このあたりにいることは特筆ものである。オオオサムシ、マヤサンオサムシ、ヤコンオサムシ、マイマイカブリ、いずれも多い。

コガネムシ科では、アカマダラハナムグリも毎年1頭ずつくらい採集できたが、現在は出会うことがないようである。チビコエンマコガネも犬糞の多い関係から多く見られる。アオカナブンとかカナブンはかつては極めて普通に見られたが、最近はその姿に接することは少ない。カブトムシなども最近では出会うことは少ない。ヒゲコメツキも多くいる。とにかく狭い地域であるが調査回数が多い、長年月にわたっての調査になっている。従って、街の中にある僅かな自然地のような所ではあるが、私の調べただけでも驚くほどの虫の記録が出ている。メクラカメムシ科などは宮本正一博士に送ったところ名前のついていない種がかなりあった。トラップ採集をし

たら恐らく新種が出てくることは間違いないと考えている。一応、私がこの地で調べた結果では、チョウ類で8科65種、カメムシ目20科145種、コウチュウ目71科895種である(高橋寿郎、神戸市兵庫区烏原貯水池畔産チョウ・カメムシ・コウチュウ目目録。烏原貯水池自然調査書、p.1-14、神戸市土木局公園部、(財)兵庫県環境科学技術センター刊、1993)。

ただ前にも記したように、公園化したことから訪れる人が多くなり(それだけ汚れることにもなる)、若い人達による貯水池の密漁が横行している。また車の乗り入れが増加して暴走族までやってくる。何だか落ち着かない状況になってきて自然破壊が増加しており、いずれかつての自然は失われる運命にあるように思われる。

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

ヒメアカタテハがゼニバアオイで越冬 近藤 伸一

ヒメアカタテハがゼニバアオイを食餌植物にしているのは報告(1997)したが、冬期も幼虫が食餌植物にしているのか、またこの植物で幼虫が越冬出来るのかどうかを観察できていなかった。

今春、神戸市西区内でゼニバアオイに造られたヒメアカタテハの巣を見つけた。1株に終令幼虫1、亜終令幼虫2、中令幼虫1の計4匹、別の株に中令幼虫1を確認し、次週にも1終令1亜終令幼虫を観察した。これでヒメアカタテハの幼虫は冬期にもゼニバアオイを食餌植物として利用し、越冬していることが確認できた。

神戸市西区岩岡町(52340756) 1終令3中令幼虫
写真撮影 28-III-1999

神戸市西区岩岡町(52340756) 1終令1亜終令幼虫
写真撮影 03-IV-1999

ゼニバアオイは近年分布を広げ、西区岩岡町でも広い範囲でみられる。肥料を要求する植物なのか、畑の畦や水路の法面など畑地に近接した場所を好む。しかしこのような場所は作物の管理のため、他の雑草とともに刈られたり、除草剤を散布されたり、燃やされたりとヒメアカタテハの幼虫にとっては過酷な環境である。上記観察場所も、4月17日には除

草剤が散布されたようで、畦の植物はすべて枯れ、その後夏までゼニバアオイから幼虫の生育を観察することが出来なかった。

なお本年の春は、ヒメアカタテハの成虫及び幼虫を調査の度に観察することが出来た。調査場所は神戸市西区岩岡町A地区(52340756)、同B地区(5234-0767)、同C地区(52340766)で、観察結果は次のとおりである。また幼虫はヨモギから確認した。

11-IV-1999 B地区 1♀ヨモギに産卵

17-IV-1999 B地区 成虫2exs.

25-IV-1999 A地区 成虫2exs.

5-V-1999 B地区 成虫1ex.

9-V-1999 A地区 成虫1ex., B地区 成虫1ex., 終令幼虫1, C地区 3令幼虫1.

16-V-1999 A地区 成虫1ex., B地区 終令幼虫2, C地区 3令幼虫1.

22-V-1999 A地区 4令幼虫1., C地区 2令幼虫2, 3令幼虫2.

5月以降も調査の度に、成虫、幼虫は観察できたが、ゼニバアオイから幼虫を確認したのは9月5日で終令幼虫であった。

<参考文献>

近藤伸一(1997)ヒメアカタテハの食草ゼニバアオイ きべりはむし25(2):59

(KONDO SHINICHI 神戸市西区岩岡町619-57)